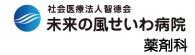
## 薬剤科ニュースレター

# 2022年1月

No. 9



### 統合失調症の治療薬と認知症様症状について

先日当院における統合失調症家族教室に参加されましたご家族の方から『統合失調症の薬を飲んでいると認知症になると聞きましたが…』というご質問をいただきました。今号ではこの質問に対してのお答えを記載いたします。

認知症と言われれば高齢者の病気で、アルツハイマー型といった病名が思い浮かべられると思います。 認知症の病型としてはこの "アルツハイマー型認知症"のほかに、レビー小体型認知症 DLB"、"脳血管性認知症"、"その他"に分類され、前 3 者が三大認知症と呼ばれ全体の 85% を占めるとの報告があります。

認知症の症状は、物忘れ等の記憶障害や時間や場所がわからなくなる見当識障害および理解力・判断力の低下などの中核症状と、幻覚・妄想等を生じる行動・心理症状 (BPSD; Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) に大別できます。

統合失調の治療薬剤で上記のような認知症様症状が生じるか否かとのお問い合わせですが、結論から申し上げますと、統合失調の治療薬を服用されている方の中には、認知症様症状を生じる方がおられることがあります。100%生じるわけではないので個人差ということになります。

統合失調の治療薬の一つの特徴として, 鎮静を目的とされているものや覚醒を低下させる作用があります。一般的にこれらの特徴を有する薬剤は特に認知症様症状や認知障害をきたしやすいとされております。

また統合失調症治療薬のほかに、睡眠薬や振るえ止めの薬、うつ病の薬およびかゆみ止めの薬などでも認知症様症状や認知障害をきたしやすいことが報告されております.

身近なところでは、胃薬、市販の風邪薬・咳止め更には痛み止めの薬でも認知症様症状を呈した という報告もあります。

上記に挙げた薬剤以外においても様々な薬剤の有害事象として認知症様症状は報告されておりますが,一般的には薬剤の服用を中止すれば,これら認知機能の障害は改善されることも明らかとなっております.

さらに、患者さん自身の高齢化に伴い、病気が増えて(統合失調症のほかに、高血圧やコレステロール障害、頻尿、腰痛等の整形疾患など)服用する薬剤も増えてくると、認知症様症状が発症しやすくなることも分かっております。従いまして、服用する薬は副作用の少ないもので最小限に、が原則となってきております。

#### 認知機能障害を生じやすいとされている当院採用薬の一例

系統	当院採用薬
ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬	デパス錠 O.5 mg, 1 mg
	2 mg・5 mgセルシン錠, セルシン散1%
	ハルシオン錠 0.125 mg・0.25 mg
	ベンザリン細粒1%,ベンザリン錠5mg
抗精神病薬	コントミン糖衣錠 12.5mg・25mg
抗パーキンソン病薬	
三環系抗うつ薬	トフラニール錠 10 mg・25 mg, アナフ
	ラニール錠 10mg・25 mg
SSRI	パロキセチン錠 5 mg・10 mg・20 mg「ア
	スペン」イフェクサーSR カプセル 37.5 mg・
	75 mg
抗てんかん薬	アレビアチン散10%
H1 受容体拮抗薬	レスタミンコーワ錠 10mg, アタラック
	ス P 注射液,アタラックスカプセル 25mg
	ザイザル錠5mg,
H2 受容体拮抗薬	ファモチジンD錠「サワイ」

#### ★編集後記

今回は抗精神病薬の副反応情報提供について、その一例を記載いたしましたが、 どんなお薬においても良い面・悪い面があります.

より良い薬物治療ができるようにアドバイスしていきたいと薬剤科一同考えております。 オミクロン株の新型コロナウイルスが流行しております。

感染予防を引き続きよろしくお願いします.